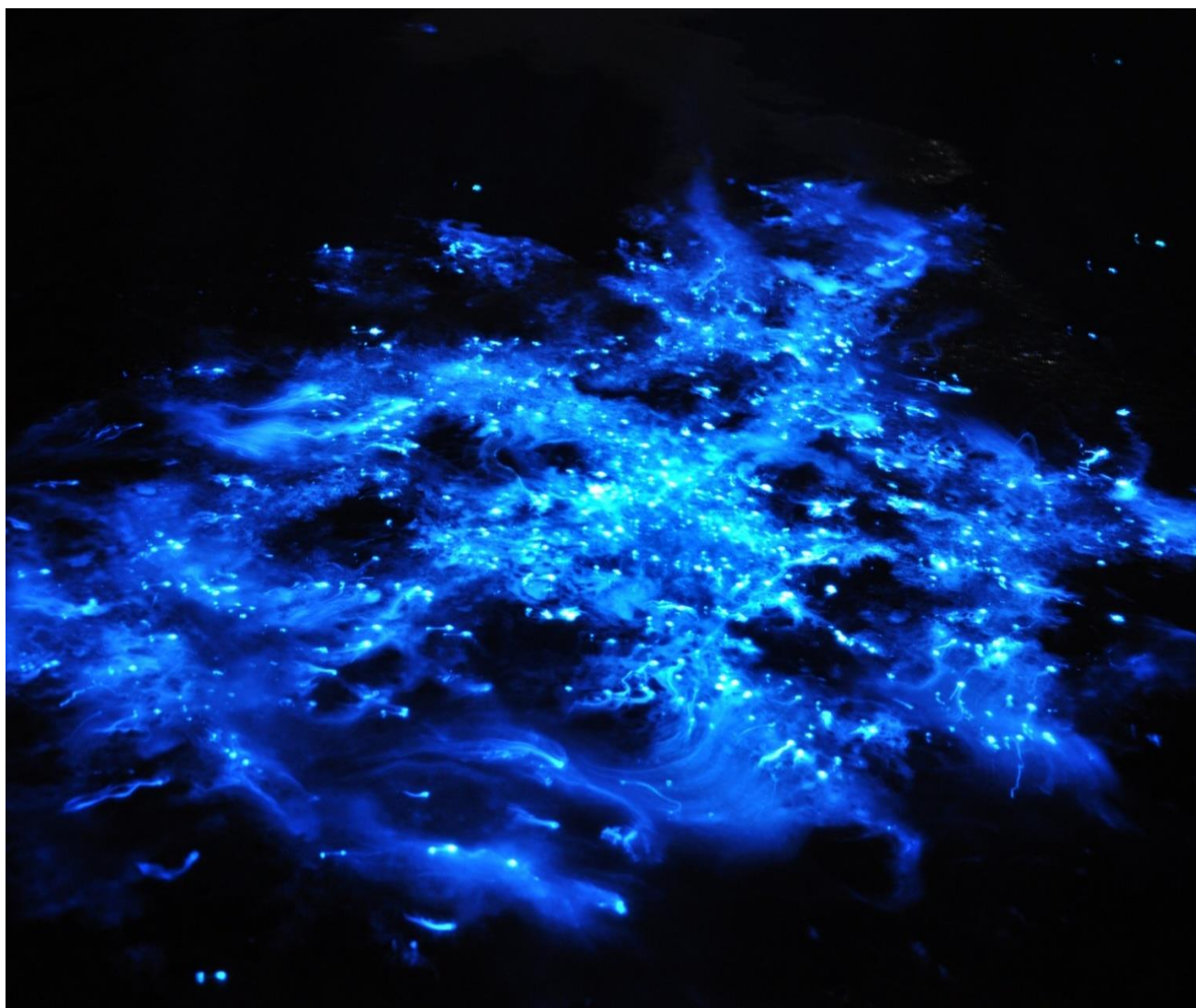


ウミホタル観察

～海の宝石を探しに行こう～



国立淡路青少年交流の家

<お問い合わせ先>

国立淡路青少年交流の家 企画指導専門職

E-mail : awaji-senmon@niye.go.jp

TEL : 0799-55-2696

ウミホタル観察

～海の宝石を探しに行こう！～

■ 概要

ウミホタルは、大きさが3mmくらいの甲殻類(エビやカニのなかま)です。
夜行性で昼間は海の砂の中に潜っていて、暗くなると砂の中から出てきて活動します。幻想的な光を放つウミホタルに触れて、自然の雄大さを感じましょう。

■ ねらい

- ◆「観察する」ことを通して、生き物のおもしろさ、すばらしさに気づく。
- ◆自然とふれあい感受性を育む。

■ 準備物

	準備物	必要数
1	●ちくわ、魚肉ソーセージ等	グループ数 <small>※採集ビンにちくわ1/3程度</small>
2	●懐中電灯	グループ数
3	△採集容器	グループ数
4	△ルーペ	グループ数
5	△シャーレ	グループ数
6	△ライフジャケット	人数分

●…必要なもの

△…交流の家で貸し出しできるもの
(数に限りがあります)

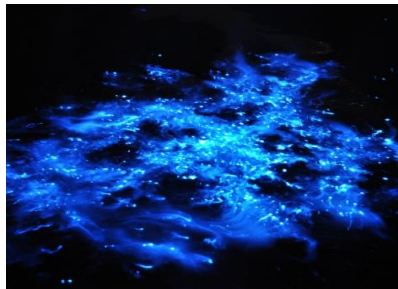
■ 指導者、人数、費用など

対象	小学生以上	
指導形態	団体指導者による指導	
人数	4～100人	
1グループ人数	4～10人	
実施時間	日没後から30分後	
場所	導 入 活 動 中 ふりかえり	研修室(室内) 所外(阿万海岸) 研修室、かんぼ広場
時期	1年中(満月の夜や寒い季節はやや不向き)	

■ 服装

運動靴

雨具(雨天実施の場合)



■ 展開

	活動	研修生の動き	団体指導者の動き	
			指導内容	備考
導 30分 入	動機付け		観察の目的を伝える。	研修生の聞く態度に配慮する。
	ウミホタルを知る	・ウミホタルの生態を知る。 ・観察用具の使い方を知る。	ウミホタルの生態や観察器具の説明をする。	
	安全指導(全般)	・交通、活動中の注意を知る。		
活 60分 動 中	移動(15分)	・阿万海岸に移動する。	点呼を行い移動させる。	暗いので、足元に注意させる。
	観察(30分)	・採集容器をセットする。 ・観察する。 ※日没前に採集容器をセットすることも可能です。 (ただし、海水浴期間は早い時間にはセットしないこと)	各グループの観察に気を配る。	【採集容器のセット方法】 ・採集容器に海水(少量)とエサを入れる。 ・採取ポイントから採集容器を入れる。 ・採集容器を30分程度海中に沈めた後、回収し、ウミホタルを観察する。 【注意】 ・潮の満ち引きに注意。 ・貸し出し用採取容器を破損した場合、ケガに気を付け、容器の破片を回収し、事務室まで申出る。
	移動(15分)	・交流の家に移動。	点呼を行い移動させる。	暗いところを通るので、足元に注意させる。
ま 1 と 0 め 分	ふりかえり	・グループ内でお互いの感想を発表する。	グループの感想をまとめ、発表させる。	研修生の聞く態度に配慮する。

■ 留意点

①指導上の留意点

- ・観察に適した時間帯は日没から30分以降です。(日没時間はまだ夕日が残るため観察しにくいので注意)
- ・夜間の活動となるため、移動時は近隣の民家に迷惑がかからないよう静かに移動してください。
- ・貸し出し用観察器具の扱いに注意してください。
- ・生き物の採集、ダメージを与える行為は最低限にしてください。
- ・裏門は通常、閉まっています。観察に出かける際は鍵を開けますので、事務室に申し出てください。

②安全上の留意点

- ・潮位175cm以上の場合は捕獲場所が水没・越波する恐れがあるため、中止を検討ください。
- ・晴天時でも潮の満ち引きや高潮の情報を事前に事務室で確認してください。
- ・夜の海辺はたいへん危険です。研修生から、目を離さないようにしてください。
- ・希望者には、観察器具やライフジャケットを貸し出します。事務室に申し出てください。(数に限りがあります)
- ・観察場所の阿万海岸まで徒歩で約15分かかります。交通ルールやマナーを遵守してください。

ウミホタルを探しに行こう

ウミホタルってどんな生きもの？

ウミホタルは日本固有の生物で、青森県から沖縄県までの広い範囲に生息し、特に千葉県南房総や瀬戸内海岸では非常に多く見られます。大きさ約3mmの甲殻類で、エビやカニの仲間です。夜行性で昼間は海の砂の中に潜っていて、暗くなると砂の中から出てきて活動します。生息場所は波の穏やかな内湾等で、淡水の流入(川など)が少ないところです。

ウミホタルのからだ



ウミホタルの発光

ホタルのように体の一部が光るのではなく、青い発光物質を出して明るく光ります。色々理由はありますが、最もよく知られているのが何かの刺激による発光です。魚に襲われたり、また外からつついたりすると光ります。

ウミホタルの捕まえ方



①容器に採取用エサを小さく切って入れる。



②岸壁から1m離れたところに投げ入れる。
※捕獲容器がプラスチックの場合は、投げる前に少し水を入れてください。
※紐は持った状態で投げ入れてください。



③20分ほどでビンを取り出して観察する。

ウミホタルの見える場所



阿万海岸中央の飛び込み台



○潮の高さにご注意ください。

- ○車で移動の場合 (約2.5km)
→ ○徒歩で移動の場合 (約1km)